

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-77	実施計画番号	95	事業開始年度	
事務事業名	障害者団体への支援			事業終了年度	
担当課名	福祉課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	補助金交付要綱	関連事務事業			
背景や経緯等	各福祉団体の活動又は運営に要する経費の一部について、補助金を交付する。				
事務事業の目的	障害者の福祉の向上を図るため、各福祉団体へ支援を行う。				
実施状況	事業費補助金交付団体 ①市障がいのある子を育む親の会連絡協議会に対する事業費補助金 82,800円 ②市身体障害者福祉会に対する障害者福祉事業費補助金 350,000円				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	1	1	1
	人件費(千円)	36	36	36
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		433	433	433

【指標】

活動指標	活動指標名①		市障がいのある子を育む親の会連絡協議会の活動状況			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	事業数の実績		事業数	7	6	6
	名が瑠		市身体障害者福祉会の活動状況			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業数の実績		事業数	5	8	8	
成果指標	成果指標名①		市障がいのある子を育む親の会連絡協議会の会員数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	会員数	人	目標値	30	20	25
			実績値	30	20	25
			達成度(%)	100%	100%	100%
	成果指標名②		市身体障害者福祉会の会員数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	会員数	人	目標値	38	45	45
			実績値	38	38	45
達成度(%)			100%	84%	100%	

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">障害者の福祉の向上を目的としているため、事業に要する経費の一部に対する補助金は妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	障害者の福祉の向上を目的としているため、事業に要する経費の一部に対する補助金は妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
障害者の福祉の向上を目的としているため、事業に要する経費の一部に対する補助金は妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">障害者等の自立した社会活動を支援する上で、補助金の交付は有効である。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	障害者等の自立した社会活動を支援する上で、補助金の交付は有効である。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	障害者等の自立した社会活動を支援する上で、補助金の交付は有効である。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">補助金交付要綱及び市補助金等の交付に関する規則に基づいて事務を進めているため、効率性には問題がない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	補助金交付要綱及び市補助金等の交付に関する規則に基づいて事務を進めているため、効率性には問題がない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	補助金交付要綱及び市補助金等の交付に関する規則に基づいて事務を進めているため、効率性には問題がない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">福祉団体への支援であり、受益者負担は望めない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	福祉団体への支援であり、受益者負担は望めない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
福祉団体への支援であり、受益者負担は望めない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

障害者等の自立した社会参加を推進するために、団体活動を支援していく。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

事業をととして会員数を増やすための工夫や団体間のネットワークづくりを支援する。